

## 平成28年度 第2回 安曇野市総合教育会議 会議録

日 時 平成28年12月13日（火）午後2時00分

場 所 安曇野市役所3階 会議室301

### ○出席者

市長 宮澤 宗弘

教育委員長 唐木 博夫 教育委員長職務代理者 須澤 真広

教育委員 横内 理恵子 教育委員 二村 美智子

教育長 橋渡 勝也

### ○補助のため出席する者

教育部長 山田 宰久

学校教育課長 古幡 彰 生涯学習課長 蓮井 昭夫

文化課長 那須野 雅好 図書館交流課長 高嶋 俊明

中部学校給食センター長 曾根原 正之

学校教育課学校教育係長 藤澤 一渡

### ○事務局出席者

補佐兼教育総務係長 平林 洋一 学校教育課教育総務係 岩原 遼子

## ◎開 会

**教育部長** それでは、定刻となりましたので、ただいまから平成28年度第2回総合教育会議を開催いたします。

私、教育部長の山田でございますが、本日の進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくをお願いいたします。

それでは、本日の総合教育会議を公開として行いますので、よろしくをお願いいたします。

---

## ◎市長挨拶

**教育部長** 最初に、宮澤市長からご挨拶をお願いいたします。

**市長** 皆さん、こんにちは。

師走の大変お忙しい中をお集まりいただきまして、第2回ということになりますが、安曇野市総合教育会議を開催させていただきます。

教育委員会の皆さん方には、日ごろ安曇野市教育行政について特段のご尽力を賜っておりますこと、改めて御礼を申し上げる次第でございます。

既にご案内のとおり少子高齢化、人口減少時代というようなことで安曇野市もご多分に漏れず、人口減少が続いております。合併当時10万人を目指していたわけでございますが、残念ながら世界のソニーが撤退をするというような形の中で現在9万8,200人台に落ち込んでおります。このことは、大きな社会問題でございまして統計等発表されているところによりますと、2040年（平成52年）には安曇野市の人口が約7万8,000人まで減少するという予測数値が出ております。このことは、教育行政にとりましてもいろいろな問題が生じてくるのではないかと考えておりますし、何とか人口減を食い止めたいということで8万3,000人を目指しているところでございます。

人口が減り続ければ子どもの数がどんどん減っていくということで、一方統計等によりますと900人くらいの子どもの数が減っていくということは1校どこかへいってしまう、1校廃校になるというような状況が迫ってくるという大変危機感を持っております。

こういった中で将来にわたって活力ある安曇野市づくり、これは安曇野市の将来構想の位置づけになっております「北アルプスに生まれ 共に響き合う 田園産業都市」ということでもございまして、この田園産業都市安曇野をどのように持続可能な市にしていくかということが大きな課題でございます。

市では子育て支援、子どもたちがたくましく健康な心身を持って、そして魅力ある学校づくり、子育て施策を今講じているところでございましてこれらの重要性というものがますます増してくる時代でございます。

一方、高齢化が進んでおりますので高齢者の福祉という面も捉えて両にらみでいかざるを得ない。さらに、一定の規模の施設整備等もしなければいけませんので、例えば社会教育の中では南部総合公園の南に用地を求めての総合体育館の建設事業等もございまして、健康長寿のまちづくりを目指しているところでございます。医療費が年々増加していくような中で、予算100億円を優に超える時代になってしまっております。

こういった中で、一定の所得水準を満たすといえますか、低所得者の皆さん方に高校、大学等へ進学するお子さんの保護者の皆さんに対して、ふるさと寄附金の一部を活用させていただきまして新年度無利子による入学準備金の貸し付け制度創設を目指しております。そして、これも議会のほうで既に表明をしております小中学校の入学時における就学援助費の前倒しの支給というようなことに取り組んでまいりたいということでございまして、県下においてもある面では先進的な子育て支援の取組みを推進させていただいております。

市といたしましても、未来を担う子どもたちのこれからの健やかな成長といえますか、今までも教育委員会にお願いをしてまいりましたが、それぞれの子どもたちの持てる能力、個性、十分に生かしていただくようなたくましい子どもを育てていただきたいな、そんな思いでございます。

本日の総合教育会議では、主に小中連携、そして小中一貫教育、またICTの教育などについて意見交換をお願いすることになっております。少子化が進展をする中で活力ある小中学校、それぞれ特色ある小中学校をどのようにつくっていけばよいのか、効果的なICT教育のあり方についてもご意見をいただきたいというふうに思っております。

また、8月8日に開催させていただきました前回の総合教育会議でも取り上げたところでございますが、健康でたくましい安曇野の子どもを育てるために議論を踏まえまして、教育委員会の取組みにつきまして中間報告を担当のほうからさせます。また、総合教育会議、行政と教育委員会が十分な意思疎通を図ることが大きな目的でございますし、教育の課題、あるべき姿を共有してより一層民意を反映した教育行政の推進を図る、こんなことが目的でございますのでそれぞれご意見を伺いたいなと思っております。

ただ、私ども行政を預かる者の立場としては今まではお金を出して教育委員会には口を出さないというのが原則でございました。しかし、私としてもあまり中に踏み込んで教育委員

会の独自性を侵してはならないというようには考えておりますが、一方財政が非常に厳しいということも是非ご認識をいただきたいと思っております。特に、合併特例債が平成32年度で切れますし交付税も年々減額になっています。そんな中で、決して教育行政だけが聖域ということではございません。これは、財政に見合った教育の効果を上げていただかなければなりませんし、要望がここで決定されたからといってこれから新年度予算の査定時期にも入ります。全てが要望どおり通るということも大変厳しい状況にあるということもご認識をいただいて、少なくとも各課各部に対しては予算の節減を図ってほしい、そして全ての事業事務を見直してほしいということで平成28年度1%は少なくとも節約をする、あるいは見直すところは見直してほしいというお願いをしております。仮に、400億円の予算とすれば1%削減できれば4億円、2%を目指してほしいというお願いをしております。2%ということになれば8億円の財政縮減ができて、もっともっとソフト事業のほうに投資ができるということもございますので、その辺も十分ご理解をいただいて議論を深めていただければと思います。

私のほうからは、以上でございます。

---

#### ◎教育委員長挨拶

**教育部長** それでは、続きまして、教育委員会を代表いたしまして唐木教育委員長からご挨拶をお願いいたします。

**教育委員長** それでは、教育委員会を代表いたしましてご挨拶を申し上げます。

本日、平成28年度第2回安曇野市総合教育会議が開催されますこと、教育委員会としても大変にありがたく思います。

昨年度の本会議の発足以来、回を重ねていきますが、総合教育会議を通して市長と教育委員会の一層の意思疎通と連携が図られ、安曇野市の教育、文化、スポーツなどの振興に向け、安曇野市の特色や優位性を生かしたより質の高い教育や市民サービスなどの一層の充実を願うものであります。

本日の会議では、今市長さんのほうからお話がありましたが、本年度の第1回総合教育会議に引き続き、安曇野の子どもたちのよりよい育ちや安曇野教育の充実発展につながるテーマをもとに話し合いが持たれます。子どもの育ちや学校教育にかかわって、今感じていることを少しお話しさせていただきたいというふうに思います。

今年も12月2日の堀金中学校を最後に、教育委員会の学校訪問が行われました。17校の訪

間を通して改めて感じたことをお話ししたいわけですが、小学校10校にはやはり10校の、中学校7校には7校の風が吹きそれぞれの学校の色を醸している、そしてそれぞれの学校の中で子どもたちが素直に成長していることの実感を得ました。それぞれの学校に漂う校風の心地よさがあるわけですが、それはそれぞれの地域の歴史であり、伝統であり、その地に生きる人々であるという思いを強く感じその地域というものを大事にしなくては行けないなという思いを強くいたしました。また、安曇野市が子どもたちの健やかな育ちに力を入れていただいていたことの成果も感じました。

昔から教育は百年の計と言われるわけですが、同時に現在の教育は過去の100年の歴史と責任を背負っているなということを思うわけなんです。

今の安曇野市の教育について見ますと、教育の普遍的なテーマである確かな学力の育成、たくましい心身の養成、豊かな心の醸成があるわけなんです、それとともに安曇野市としては不登校生の育ちに向けた課題が依然残っております。また、教職員については授業や学級経営に課題が見られると思われる教員も見られます。教育は人なりの言葉どおりその資質や能力の一層の向上は、教職員の職責の一つであるというふうに思います。

また、社会では多様化やグローバル化の中で独自性を持たなくては個人も社会的な組織も持続的な成長は望めないと言われております。しかし、教育の場に目を向けるとどうも一律一様な価値観がその時々事情により強く求められ、それに押されているような気がしてなりません。私自身も現職のころを考えると、やはり外からの要請には極めて弱かったなということを忸怩たる思いを持ちます。

安曇野市の市内各校がそれぞれの特色を生かした教育の中で、子どもたちの個性や特性、その子の持つ能力や才能などの開花の手助けにより、子どもたちが社会の中でいろいろな力を発揮し成長し、発展してほしいなというふうに思います。

少し長くなってしまいましたが、本日の会議において子どもたちのよりよい育ちに向け、率直な意見交換を行い理解を深めたいなと思います。宮澤市長様におかれましては、今後とも格別のご理解とご協力、連携をお願いしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

以上、教育委員会からのご挨拶といたします。

ありがとうございました。

**教育部長** ありがとうございました。

◎議事 (1) 小中連携・小中一貫教育について

**教育部長** それでは、4の議事に入らせていただきます。

議事の進行につきましては、この会議の主催者であります宮澤市長より進行をお願いいたします。

**市長** それでは、私のほうで一定の時間、議事進行を務めさせていただきますのでよろしくお願い申し上げます。

まず、議事の小中連携・小中一貫教育について、事務局から説明をお願いします。

**教育部長** 「小中連携・小中一貫教育について」資料により説明。

**市長** 事務局から一瀉千里の説明でありますけれども、終了をいたしました。

それぞれ委員の皆様方からのご意見を承りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

私のほうから聞いてもいいですか。

先ほど小中一貫教育なり、あるいは諏訪市のあり方と中野市のあり方は違いますよね。一貫教育、必ずしも小中一貫ということではない、連携もしてやっていくということか、一貫教育をしっかりと取り入れたということでもいいですか。

**学校教育課教育総務係長** 中野市、それから諏訪市につきましては中野市の場合は市内小学校、中学校をこれから再編していく、平成30年度以降に現在小学校11校を順次統合して、将来には5校にするということで方針案を立てられまして今後取り組みをしていくという、いわば中間的な例であります。

また、諏訪市の場合ですが、本年2月に有識者の皆様方から提言書をいただきまして、これから10年程度をかけて小中学校を3つの学校群に整理統合いたしまして、それから小中一貫校を図っていくということで計画が出たという段階でございます。

ですので、諏訪市、中野市につきましてはそういった方針案が今出たところでございまして、今後の実現はこれからという状況でございます。

以上でございます。

**市長** 安曇野市としては、一貫教育なり連携教育というのは先ほどすぐにと話ではないという説明があったけれども、いつごろまでを目標に連携なり一貫教育に移行していきたいという思いがあるわけですか。それは、ここで論議をしろということなのか。

**学校教育課教育総務係長** 市長がおっしゃったとおりでございまして、諏訪市さんでも10年計

画をもう既に2年かけておつくりになられたということを考えますと実際具体的な年月までは申し上げられませんけれども、安曇野市としてもこういった方向がいいのか、悪いのかは別にいたしまして検討する時期がまいつているというふうに事務局では捉えております。

以上でございます。

**市長** そうすると、今まで事務局から説明していただいたことを参考にして教育委員の皆様方から小中学校の一貫教育については連携がいいのか、一貫がいいのか、あるいは導入をすればそのプロセスをどうするのか、そういったことを議論をしてもらいたい、こういうことだそうです。ご意見を承りたいと思います。

どうぞ。

**教育委員長** 今、今後どういうふうに小中一貫とか小中連携とかを考えていくかという、その一番出発にあたるような会議になっていくわけですけれども、一つ、私ずっと考えていることを少しお話ししたいと思います。

私は、やはりゼロ歳から18歳までの育ちの保証というような観点を持っていくべきではないか、そのことが冒頭お話がありましたけれども、少子化とか人口減少とか高齢化に対する一つの施策になっていくのではないかな、と。

例えば、大学とか専門学校へ入るために安曇野市から出ていく子どもたちが大勢いるわけですけれども、一旦外へ出ていろいろな体験をしたり見識を広めたりして行って、そしてやはり安曇野市へ戻ってほしい。そして、数値的に何%くらいなのかということとはわかりませんが、安曇野市へ戻ってくるような、そういう子どもたちを育てていくということでゼロ歳から18歳ということで考えているんです。そのためには幼稚園、保育園、それからこれから出ていくこども園、それから小中の連携、さらには高校との連携なども図りながら目の前の課題の解決ということもあるわけなんですけれども、中長期的な計画の中で展望の中で安曇野市の教育というものを特色づけていく、考えていくことがいいのかなと思うわけです。

それはなぜかということなんですけれども、今諏訪市と中野市のお話がありました。先ほど、事務局のほうから説明があった平成34年までの様子を見ると小学校7校は減少なんですけれども、増加している学校が3校あるわけです。中学校についても6校は80%くらいまで減少するんですけれども、増加している学校もある。こういうような地域というのは恐らく長野県の中で珍しいという言い方はおかしいのですが、特別ではないかという気がするんです。そうすると、このような安曇野市のポテンシャルを生かしていく、そうすることによっ

て先ほど地域発スクールモデルという話がありましたけれども、安曇野市発のスクールモデルをつくって、そしてそれを発信していく。それが結局、安曇野市が教育に力を入れている、それから子どもたちの将来を考えているというようなことを含めて人口増、少子化対策というのにもかかわっていくのではないかという気がしているわけなんです。

ですから、小中連携という枠をもう少し広げていろいろなことを考えていったらどうかな、そんな思いをいつも持っております。

ここまでにしたいと思います。

**市長** そうすると、連携をするなら高校も含めての連携ですね。

**教育委員長** そうですね。

**市長** この間、堀金中学校の生徒会の役員の方々の皆さんとの話し合いの中で6人の皆さんと話してそれで将来安曇野市に住みたいか、あるいは東京へ出たいかという中で4人が安曇野へ残りたい、それから2人は東京へ行きたい。なぜ東京へ行くかということは、もう少し大勢の皆さんと人間関係をつくって広い視野を持ちたい。ただ、なるべく早いうちにはまたふるさとへ戻りたい。ふるさとへ残りたいという皆さんは、自然環境が素晴らしいとか人間関係がいいとか、こういう話は中学生2・3年生で出ましたが、ただ私ども市として考える場合にやはり産業振興を図りながら田園産業都市構想を掲げていますので、何とか安定した働く場の確保というものが非常に必要で産業振興を図りながら雇用の場の創出をどう図るかというのは、これは市としての大きな課題だというふうには捉えております。

その中で、なかなか企業誘致をしたくても今それぞれ国や県のかんがい排水事業が入っていて簡単に農地への転用ができない。あまり乱開発もできないけれども、安曇野市の中で50町歩から60町歩が遊休荒廃農地になっている。土地利用計画をしっかりと立てながら、企業誘致もして働く場も確保しないとなかなか働く若い人が増えてこないということですから、これは産業政策とあわせて考えていくべき課題かなと思っております。

それから、一つには非常に優秀な企業がたくさんあるのですが、どんな内容の企業であるかということがあまり子どもたちには理解されていないなということを感じました。従って、これはこの地域で活躍していただいている企業の案内というものも、ある面では社会科の学習か何かでは取り入れて、それでふるさとをしっかりと知っていただけるような学習というものも、また学校の先生方との協力をしていただいでやっていく必要があるのではないかと思います。

今日、一貫教育なり連携教育がいいか悪いかという結論をここで出せということですか。



**学校教育課教育総務係長** 直ちにいずれかの方法にということをお決めいただくのではなくて、やはり小中一貫教育なり連携なりについての検討を始めていくということでお進めをいただければというふうに考えております。

以上です。

**市長** 私は、今日ここで結論が簡単には出ないのではないかというように感じています。私がいあまり発言をするということは不適切かもしれませんが、意見を聞きながら成功しているところの事例なんかもう少し深く勉強しないと、このことがいいことだからといってすぐに実現できるということにもなりませんし、また諏訪市やこの先の中野市は委員会をつくって検討委員会、これ15人以内とか25人以内でやっているんだけれども、安曇野市としてはこういった取り組み体制づくりというものはどう考えているんですか。

**教育部長** 私どもも、多角的な面からそういった委員会をつくって検討に入らせていただけたらなというようなことは感じております。

**市長** それで、これは教育委員会としての規則の中でつくるのか、あるいはきちんと条例をつくって議会の議決を得た委員会にするのか、その辺のところは検討されているわけですか。

**学校教育課長** 平成29年度はまず小中学校の活性化、そのようなことで会議をやるということで条例にするとか、そこまでの会議という位置づけは考えておりません。皆様方の意見を聞くというような会議を開きたいと思います。

以上です。

**市長** 多角的にいろいろな思いというか、まず意見をそれぞれ出していただいて、そういったものを参考にしながら今後の方向づけをしていきたいということでもありますので、自由な発言をお願いいたします。

どうぞ。

**教育長** では、お願いします。

私も数年前、現場に勤めていたわけでございますけれども、そのころから小中連携をできるところからしようではないかということは教育委員会からもお話がございましたし、17校共通の意識で取り組んできたと思います。ですので、既に小中連携については数年間の実績を積み上げてきている、こんなふうに認識をしています。

そんな中で、具体的には先ほど唐木委員長からありましたように小学校より以前のところでは幼保と小との連携が今盛んに取り組まれています。つまり小学校1年生の段階、教室の中でなかなか落ち着いて座ってられないような子どもたちも見受けられるという中で幼稚

園、保育園の時代はどんな生活をしているのかというようなところを小学校の先生が保育園の現場に出かけて、そして様子を見たり、保育士の皆さんと懇談をしたり、そんな情報交換もしております。

また、上のほう、高校との連携については、また最後の報告のところでも申し上げますけれども、市内4校では市やあるいは教育委員会との連携をさまざまな形でやりたいという強い思いを持っていることがわかりました。そんな中で、実際に高校との連携ということを進めている学校も幾つもあるわけですが、お互いが同じ地域に住む子どもたちでありますし、また地域は同じ理想であるとか目標であるとか、そういうものを掲げながら育てていくという立場で小中連携ということは保育園、幼稚園から小中高まで含めて共通の土台の認識の上でこれからもっともっと取り組んでいくことが大事だし、その可能性はまだ十分あるなということを感じています。

以上です。

**市長** それで、私は教育関係がよく理解をできないんですが、小中連携と小中一貫とそれぞれ資料1で説明をしてもらいました。連携というと、ある程度安曇野市の場合は各学校が離れていて一貫というとすぐそばにあったほうがやりいいのか、例えば明科中学校と明南小学校は同じところにある。他はほとんど近くにはあるけれども、中学校と小学校が離れているということで安曇野市としては一貫という方針がいいのか、連携という方針がいいのか、何がいいのかということをお話の中で議論をしようということですか。

**学校教育課教育総務係長** 今、まさに市長がおっしゃったことでございまして小中連携ということか、一貫教育か、あるいは施設が離れているということもございましてそういった本市の特性も考慮いたしまして、まず市内でもって方向性というものをきちんと定めた上で来年度中には有識者等の会議の中でご意見をいただきたいというようなことで、そういった検討を本格的に始めていくということにつきましてお話をいただければと思います。

以上です。

**市長** 連携がいいのか、一貫がいいのか、いずれにしてもお互いの連携、今まで実績をある程度積んできたところで、できるところから実証していったらどうだという教育長の発言もございました。今までの既に実績がある程度積み上がってきているのだということもお聞きをしましたが、具体的な教育効果というか、成果というものはどんな形であらわれてきていると見たらいいのでしょうか。

**教育長** 小中が離れているか、近くにあるかということとは別としても中学校区というのは旧町

村時代から大事にされてきたものがあると思うんです。そんな中で、やがては一緒の中学校へ行く小学校が複数あった場合も、自分たちの育てた子どもたちがやがては同じ中学校で学ぶというのに、中学校がどういう生徒を育てたいと思っているのかわからずに小学校で教育をするのはやはり効果が薄いと思うんです。やはり、同じ地域で同じ中学校でやがて学ぶ者たちが同じ目標を持って取り組む、そんなところが非常に大事ではないかということで今やっているわけけれども、その前にそもそもそこで働いている教員自身も顔を合わせるというか、どんな先生がいるのかというようなこともわからないような状況もかつてあったように思います。

そんなところで、もっともっと中学校区を単位とした教員同士も交流をし、中にはやっているんですけれども、中学校の先生が小学校へ出向いて行って、小学校の子どもたちに授業をするというようなこともしています。このことによって、小学生から見ると中学校というのは何かとても遠い存在、怖いような存在の意識があった子たちが、中学校の先生がこんなおもしろいことを教えてくれる。中学に早く行ってみたい、そんな気持ちを抱いて入学してきた子どもたちを実際私も見ておりますし、そうやって学校同士が連携をしていくと、教師もこういった悩みを持った子がいるので、中学へ行ってもこんな点を配慮してもらいたいというようなことがフランクに言い合えるというところで、少しずつ今効果が出ているような、そんな状況でございます。

**教育委員長** ちょっと補足させていただいていいですか。

**市長** どうぞ。

**教育委員長** 補足させていただきます。具体的な効果がどうかというお話で一つの例なんですけれども、私がかかわらせていただいた例です。不登校にかかわってなんですけど、実は具体的に名称を出しますと三郷小中に兼務をかけた不登校対策の方を置いたんです。小学校にも籍がある、中学校にも籍がある、連携型なんですけれども、それによって三郷小中の不登校生がかなり減少させることができた、と。その実践をもとに今穂高北小学校と穂高西中学校も兼務をかけている者がいるということで、やはり不登校対策とか、それから学力の向上について、小中一貫とか連携というのは一つの切り口になっていくのではないかという思いを強く持っております。

それで、今どちらがいいとか悪いとかという、事務局のほうから来年度庁内でのそういう検討するチームをつくってというお話がありましたが、それと並行して地域の方とか、それから学校の者とか、それから保護者とかそういう研究組織も同時に立ち上げて、そしてそこ

で安曇野市の子どもたちをどんなふうに育てていくのか、安曇野教育をどんなふうにしていくのかという、そういうことを並行してやっていくことによって安曇野モデルというようなものができるのかなという気もしているわけです。

ですから、従来型の例えば事務方のほうで一つのモデルをつくって、それに対して審議してもらおうという形ではなくて事務方も動いていくんだけど、現場の一番の子どもとか親とかそういうまさに最前線ですね。その方々の意見も同じようにディスカッションしながらそこで安曇野らしさというか、安曇野を特色づける、そんな教育の場ができてもいいなという思いを持っております。

**市長** 今教育委員長の言われた安曇野モデル、私も非常に大切なことだとは感じますが、先生方が非常に忙しいという話も聞いていろいろな行事なんかにもなかなか参加してもらうことも困難だというようなお話もお聞きをいたしておりますし、また学校運営には校長先生の裁量というか、権限というか、こういったものも非常に大きい。それから、学校管理の面でやはり校長会や現場の先生方の時間的な制約の中での理解と協力をどういうふうにするかということが一つの課題ではないかということをお聞きをいたしておりますが、外から見ていてそんなことを感じていますが。

どうぞ。

**須澤委員** なかなか現場の皆さんの声と、それから親御さんの声、地域の声を一体化して取り上げていく、非常に難しい課題だと思います。

先ほどの出された資料で見ますと、もう現実にあと6年後には幾つかの小学校で例えば安曇野市内小学校普通学級数の推移とA4の表にありますように平成34年、横長の小学校の普通学級数、平成34年には学校の名前を挙げて申しわけないですが、明北小学校、そして豊科東小学校は6学級になるということは各学年、これは平成31年からなんです。平成31年となりますと、あと3年後です。3年後にはもう6学級になってしまうことは、学年1学級ということですから、小学校2校が学年に1学級しかない事態にある。こういうことをその地域の皆さん及び保護者の皆さんにしっかりと実感いただく。そして、事務局及び学校関係者の意見もそこに合わせながら安曇野モデルはどうあるべきかというのを考えていくというのがもうそろそろやらなければいけない時期だなというのは、私の1点目でございます。

先ほど、古幡課長のほうから来年は活性化というような観点でそんな話し合いをしていきたいなということがございましたが、まさにそういうことではないかなと私も思う次第です。

2番目でございます。ちょっと長くなって申しわけないですが、県下の各市の状況が資料

で出されました。その中で中野市は、長野市と飯山市の間に挟まれた市でございましてかつて田園ばかりの都市でございます。ところが、長野市に近い、電車はあるものですから流出していくわけです。そういう問題がある。それから、諏訪市の問題というのはもうかつてから言われたのが高校に進む段階でまず甲府へ進む、次に松本地区へ進む、次に諏訪地区へ進むと考えるという時代がありました。私、向こうに勤めておりました。それで、地域の方々がこれは何とかということで中高一貫が県立で諏訪清陵高等学校にスタートしたわけです。それだけではなくて、諏訪市の小中一貫もつくろうではないかということなんですね。ですから、地域の危機感、地域の子どもたちをどうするか、どう育てるか、やはり地域で育てなければいけないではないか、と。流出して、他地域で育ててもらおうような状況はまずいということ。そこで、中高一貫が清陵高等学校に始まったのはみんな賛成だったんですね。あっという間にできました。

それに対して、これは小中なんですね。そうすると小中と中高が何か入り組んでしまうんです。けれども、やろうではないかと言っているわけです。それを3年後、5年後、8年後、10年後の4段階かけて中学校区をまとめ上げていこう。中学校を中心にして、四つの一貫校をつくっていこう、こういうわけです。だから、非常に先進的と言っては先進的ですが、10年後にはこういうふうにしていこう、こういうわけです。

一方、先ほど申し上げました中野市はこれはまだ目標なんですね。小学校を将来5校にする、一部のみ小中一貫校、だから地域特色ある取り組みだと思えます。

それで私、実は飯田市に6年間中学の教員で勤めておりましたので、中学について非常に大事な提案をされているのが飯田市の教育委員会の小中連携一貫教育なんです。これは、一まとめでいいますと別に一貫校をつくろうと言っているわけではないんです。先ほどの教育長先生がおっしゃった中学校区中心の教育を深めていこうではないか、こういうことなんです。そのためには、小中一貫の教育課程をつくろうではないかと言っているんですが、まだできてないわけです。ただやっているものもあるよ、そういう中でそれはキャリア教育をやっているということです。小中一貫の他教科の教育課程をこれからつくっていこう、こう言っているわけです。

これは、どこが一貫で連携なのかということと9カ年支援のシートを活用してきた、これが非常に効果的だった。つまり一貫なんですね。だから、これなんかは別に一つにしようと言っているわけではないんです。諏訪市や中野市は学校を新たにつくらなければいけないという状態なんですね。飯田市は小中学校が離れていますから、連携と言ってもどこかにつくると

というのは非常に難しい、お金がかかる状況ですので隣にあるという状況はないですから、これはもうつくっていかうということを行っているわけではないんです。

こういうそれぞれの地域に適したやり方が2年間、どこもおよそ2年間にわたって考えておりますので、安曇野市がもう数年後には学年1学級の小学校ができてしまうという状況から鑑みてやはりみんなで考えようではないかという時期かな、こういうふうに私は思っております。

長くなって申しわけありません。

**市長** いろいろとご意見があろうかと思えます。

やはり子どもの数が着実に若干増えるところはあるかもしれませんが、減っていくという現状をどういうふうに捉えていったらいいかということで、具体的には既に名前が上がっております明北小学校、それから豊科東小学校、この辺が将来どういうふうにしていくのか。あまり長い時間はない、もう近い将来だけに考えざるを得ないと思えます。

それから、今この近在では筑北村と麻績村が統廃合でもめていて筑北村の村長、12月議会へ条例を出そうというのを一旦引っ込めて、また住民理解を得るといような動きになってきていますけれども、子どもの数が減っていく現状、そしてより地域の子どもは地域で育てるという両面から安曇野市の特色ある教育環境、安曇野モデルと言われるようなものをどう構築していくかということだと思いますので、またそれぞれの思いを語っていただいてその中から方向づけをしていかなければいけないと思えますから、よろしく願いいたします。

何か横内さんや二村さんのほうで客観的に見た教育現場にいない立場でもいいので、市民の目線から安曇野教育の連携、あるいは一貫教育等について、あるいは今後の安曇野モデルづくりについてご意見をお聞かせいただければと思います。

**横内委員** 先ほど市長、具体的な効果があったものというお話がありましたけれども、昨年明科高校の生徒が明科中学校に来て自分たちの学校を紹介しに来てくれたということがありました。イメージが抱けなかった子どもも、いいイメージを持っていなかった生徒も高校生の生の声を聞いて、生き生きと説明してくれる先輩を見て、ああ、こんないいこともあるんだと言って実際入試で明科高校を受けた子が増えたという話を聞きます。すごく効果的であったし、そういう高校と中学の関連づけた、こういう活動もすばらしいなと思えました。何もやらなければそのままですし、でも何かやるとすぐに、あるいは少し経って成果は出るなと思った出来事でした。

地域を継続していくということと子どもをどうしていくかということは、お話を聞いてい

てイコールであるなと思いました。ふるさとのよさを感じて、大人になってほしいなと思います。

**二村委員** 子は授かり物ということで、誕生を祝ってゼロ歳から幼少期の教育の最終的な担い手は親だと私は思っているんですけども、と言いながらも子どもが大きくなるにつれて保護者の一番の関心は成長だったり、成績だったり、先生方との関係とか学校の様子なのではないかと思うんです。これから先、英語だとか道徳であるとか先生方に教えていただくことが増えてくることが考えられていて、将来の子どもの減少を見据えた形での保護者のあり方とか子どもたちの成長を地域の住民の一人として見守っていききたいなとは思いますが、ただ忙しい先生方が情報を共有できるような流れの構築が大切なのではないかなと思います。

そして、また今の私の中では少子化対策では一貫なのかなとは思いますが、市内いろいろな学校がありますので、その学校ごとでいろいろ考えて一貫のところもあれば連携もありなのではないかなと思っています。でも、まずはいろいろなことを研究して考えてくださる人たちを集めて、安曇野らしさを追っていくのが一番かなと思います。

以上です。

**市長** まだ、他に今日どうしても意見を言っておきたいということがあったら発言をいただきたいと思いますが、この2回の会議、本日方向づけというか、結論を出すということは拙速だと私は感じさせていただいております。ただ、連携であるとか、一貫であるか、とにかくお互いに連携を深めていく、意見交換をしていく、そして人事の交流を図るということについては前向きに捉えていったほうがいいかなという思いはいたしております。これらの資料は、まだ校長会なり、PTAなりには出してない資料だし、議会へも出してないんですよね。そういったものをもう少し幅広く、教育関係者や議会や市民の皆さん方に実態を知らせることが大切だというように私は考えます。

従って、今日はそれぞれいただいた意見を事務局でまとめていただいて今後教職員の先生方、校長会やPTAや、あるいは議会や、また市民の皆さん方に説明をする機会をつくっていただいてそうした子どもたちの方向性がこのような動向で少なくなっていくんだよ、あるいは人口減少、どういった形で食いとめていったらいいのか。総体的に教育分野だけではなくて、安曇野市のあり方、人口減にどう歯止めをかけるかということ、そして若者が是非結婚をしていただけるような体制をお互いに心配していただければありがたいなというふうに思っております。

教育の問題は、非常に幅が広くて深い課題でありますのでここですぐに結論は出ませんが、

今後それぞれの立場で、また委員の先生方からは地域の声を聞いたり、現場に出向いていただいたり、先生方の声も聞いてもらって、また次の機会にすぐにまとまるかどうかはわかりませんが、より教育効果の上がる方向で今後検討していく課題だということで捉えさせていただきます。結論は出ないと思います。

---

◎議事 (2) ICT教育について

**市長** 次に、進ませていただきたいと思います。

ICT教育について、事務局から説明をお願いします。

**教育部長** 「ICT教育について」資料により説明。

**市長** ただいまの説明につきまして、委員の皆様方からご意見、ご質問等ございましたら、お願いいたします。

何かございませんか。

私のほうからちょっと質問をさせていただきますが、これは全教室を目指してということですが、全教科にわたって先生方が電子黒板を使うということになるのでしょうか。

**学校教育課長** デジタル教科書もありますので、全てに対応できるようになっています。

私ども、各学校訪問で行かせていただきましたし先日市長さんも堀金中学校でも理科の教科で進めておりましたけれども、全てに対応できることとなります。

以上です。

**市長** 先生方は、それを全部駆使できるということで技術的な知識は持っているということですか。

**学校教育課長** 当然、ICTの支援員も配置いたしますけれども、これは勉強しながらでありますので得手不得手の先生方もいらっしゃると思いますので、その先生方にも有効な活用の仕方もあわせて教育していく必要があると考えております。

**市長** 普通の黒板を置いておいて、それは廃止にならなくて電子黒板と普通の黒板と併設ということになるわけですか。

**学校教育課長** やはり先生方も黒板に書くことがありますので、それが全くなくなるということではございません。

**市長** そうすると、電子黒板を導入するという狙いは何ですか。それによって授業の効果が上がったり、学力が向上したり、あるいは先生方の負担が軽くなったりという、狙いは文科省



がその方針だから入れるということだけだとやはり弱いと思うんですね。

**学校教育課長** 先ほど、部長から説明がありました2ページのところの導入、1ページからですけれども、その辺のところは全てということでございます。文科省のほうの指針に従っては、安曇野市は若干遅れているということでございますけれども、狙いというものはここに書いてあるものが全てでございます。

**市長** そうすると、これは全国同じ方向を向いての文科省の指導と狙い、こういうことだね。安曇野市としての教育効果というものはどういうところに求めるわけ、全国一律だと同じような内容で入れた効果、期待というか、それがよくわからないんだけど、文科省が言ったから入れますというだけではちょっと目的がですね。ただ、情報機器の時代であることは理解できるけれども、このICT電子黒板を全教室へ入れようという目的が本当にそれで効果が上がっていくのかどうか、非常に私としては疑問です。

冒頭に挨拶でも申し上げましたが、これを一気に入れるということになればとても私は無理だと感じています。2億3,300万円もかかる。そして、国のほうから地方交付税措置が8,600万円ほどあったにしても約1億4,600万円近くのは一般会計から負担しなければいけない。それから後も、先ほど部長が話をしたように1億3,000万円近く毎年毎年かけるということになります。

従って、毎年毎年1億3,000万円くらいの投資をしていって本当に教育効果というものの狙いがどういうようになっていくのか。今の財政事情だと一気にというのはここで決めても、これから査定が始まる場所ですから財政当局との連携も必要だと思いますし、非常に困難性はあるというふうに捉えざるを得ませんが。

一定の方針をここで出せばその方針に従って財政計画なり、市長査定があるのでそれを認めるということになるので私はここではちょっとこれは認めることはできません。

**教育長** それでは、お願いします。

機器導入の狙い、期待される効果等のことでございますけれども、これまでの教育がどちらかというと黒板を背に教師が生徒に向かって授業をするというスタイルが長く伝統的に行われてきているわけです。これから生きる子どもたちにとって必要な力は、どれだけ知識を持っているかというよりも、それをどう活用して社会を切り開いていけるか、困難な課題を解決しているか、そういった力が求められているということで、安曇野市でも本年度は年度当初に子どもが自ら主体的に、そして友達と協働的に学び合っていく、そういう授業をつくってほしいということでこれまで学校に指示をしてきております。

そういった主体的、協働的な学びをつくるのにこのICT機器を活用することが非常に効果的であるというふうに考えています。なかなか教師がそれを十分に使いこなしているかと言われれば、この間市長さんに堀金中で見ていただきましたように、まだまだ教師自身がなれていない面もあるので十分に効果を上げているとは言えないわけですが、例えば自分が考えたことを即座にクラス全員に提示しながら自分で説明できるという提示の機能であるとか、あるいはそれぞれのグループで話し合ったことをそこに映し出しながらお互いの考えを言い合える、たたかわせる、そんなことにはこれまで黒板だけではできなかったものが実現できていくという面では、道具として非常に効果の上がる道具であるというふうに考えています。

**市長** こういう情報化の時代だから施設を一切否定するものではないが、小学校1年から全ての教室にそういうものを設備補完するというか、そのことが果たして本当にいいのかどうか。今、どっちかという子どもたちはゲームに熱中していて自ら考えるのではなくて、器械に振り回されている、あるいは文字もあまり書かないというような時代の中でこういう情報化社会だからといってICTなり何なり、そういうパソコンも1人で1台ずつ持つような時代になるかもしれませんが、そういう情報機器だけに振り回されちゃって人間関係は本当にその中から生まれてくるのかどうか、私はちょっと古い人間だから疑問もあります。

それから、この手のものはパソコンもそうですが、毎年毎年新しい技術が革新されて新しいものの導入というようなことで、例えば耐用年数が5年だとすればまた5年後に全てを買いかえる、そしてそこでまた二億数千万円かける。恐らく交付税措置と言っても、導入するとき1回だけで買いかえのときにもまた再び交付税措置はされるわけではない。約半額程度。

**学校教育課教育総務係長** その保証は今のところございません。

**市長** 恐らくない。農業機器を買うときにも、生産組合があれば国のほうは当初買うときは2分の1の補助があるんだけど、買いかえのときにはそういった補助がないということで恐らく初回だけで国の交付税措置は終わってしまうと思うんです。そうすると、5年後にまた2億3,000万円かけなければいけない。しかも、いろいろなメンテナンスなんかでも毎年毎年1億ずつかけなければいけない。今、社会体育館をつくるにも指定管理で6,000万有余かかる、それをやめろという時代に本当にこれだけの財政負担ができるかどうかという、ここですぐに私としてはオーケーは出しかねる課題であります。

それぞれ意見を言ってください。

**教育委員長** 財政的なことも含めてなんですが、私はICT機器の有効性は十分にあるという

前提でのお話です。

実はちょっと気になることは、一律一斉に全ての学校へ入れるということに対して抵抗は実はあるんです。やはり効果があるというふうに使えていけるならば、そういう学校に手を挙げさせる。そして、自分の学校は特色として自分の学校として使っていきたいというような形にしていくことも一つの考え方ではないかという思いを持っております。つまり、欲しくて物をもらう場合とよくわからないけれども、物をもらったという場合では活用の仕方がおのずから違ってきますし、これ教育機器を使っているときには使う側の教師にしる、子どもたちにしる、やはり使う意欲というようなものがかなりなければ有効な活用になっていかないと思うんですね。それで、ただ教育がいろいろな多様化とか、それからそれぞれの学校の教育の特色づくりということしていくという考え方もあろうかと思うので一律一斉ではなく、だけれども、現代的なICTを使った教育の効果というようなものはそれは使い方によってはかなり出てくるわけでありますので、それもこの時代生かすべきではないかなという思いを持つんですね。

ですから、事務局提案でありますけれども、全校全クラス一斉に同じものを入れて、そして同じような器械を入れていくと言ったときに教育が金太郎あめ化、授業がそういう形にならない方がいいかなという思いもありまして導入についてちょっとそんな感想を持ちました。

以上であります。

**市長** 他の委員さん方のご意見、どうぞ。

**横内委員** 学校訪問させていただいた中で、書道の筆順が電子黒板に映し出されたときに一目瞭然で先生の周りに集まってこうだよと教わるよりは、全員クラスが一瞬にしてそれを見られたというのはすごいなと思いましたし、友達の美術の作品をこういうのがあると先生が紹介してくれたときにも、たくさんの映像を一瞬にして次々にクラス全員で共有した時間で見れたというのは意味があるかなと思って見させていただきました。子どもたちの学びの部分を大切にしないと、授業の質に変化がないのにハードウェアだけが入って先生の負担だけが増えるのかなというふうに思っていたのですが、意味のある授業もあるなと実際に訪問して感じました。

ただ、堀金中学校で見させていただいた授業がそうだったのですが、機器の具合がうまくいかなかったりしたときに生徒たちがざわついたりする場面もありました。先生たちもそれを使いこなせないと、時間と手間とお金がかかって子どもにそういったいいことが還元されない危険性もあると思いますが、先生方をサポートする体制も必要でそのサポート体制が整

えば、これはすごい子どもたちの学びに意味がある導入になるんじゃないかというのを現場を見てはそういうふうに感じました。

**市長** 他に。

**須澤委員** 市長さんもおっしゃったようにもうコンピュータを使うという時代になっているのは、誰しも認めるところは共通だと思います。問題は、予算上の問題をどうクリアするかという、こういうところだと思います。ですから、そこら辺は事務局としっかりお話し合いをいただくことが必要だろうというふうに思います。

やはり、今はもうICTというよりIoTと言って、もう物は全てつながっている時代ですよね。都会に行っている息子が田舎に残した母親がちゃんと生活しているかをインターネットを通じてわかっている、そういうIoTの時代になっているわけですので使えるお子さんをつくり上げていくというのは大事だと思うんです。それには、予算を制約の中でどのような要求ならば通るかといったような膝詰談判でこのような感じだとは思っています。一斉が一番よろしいかと思いますが、実は何億とかかりますのでそんなことを今感じているところが1点です。

2点は、各学校、授業の中でインターネットにつないだとき動かなくなっちゃうんですよね、これはなぜか。これは、やはり高速インターネットが設置されていない、それから無線LANが設置されていない。無線LANが全然、どの学校も1校も入っていないということです。これは、今どき無線LANのない状況はちょっとやるべきところが抜けている面が結構ある。

それから、教育用・校務用のパソコンの入れかえを先送りにするということは結構に先生方に古いのでがんばってくれ、我慢してくれ、こういうふうにするわけですから逆に、こういう面で手当てしたよというところがあると、これまたいいんじゃないかというふうには安曇野市の先生方に対してのアピールにはなるんじゃないかというふうに思いました。

以上でございます。

**市長** 二村委員、何かありますか。

**二村委員** 私の年齢になると、さまざまな機器を使いこなすということが難しくなっているんですけども、でも子どもたちが私なんか想像もできないくらいの未来を生きていかなくはいけない。そのときに必要なものは、こういうものではないかと思うんですが、先日の授業参観で感じたのは電子黒板を使いながら学習をして、そしてまた発表をして、そしてまた議論につながっていくという、すごくスムーズな流れが見て取れて、あ、いいなと思ったんです。

少子化になって児童数や生徒数が減ったとしても、学校に対する期待感は親にとってはすごく大きなものがあるので、先生方の教える力を補う力を持っているのがICTではないかなと思うんです。安曇野市の未来を左右する教育ではないかと思い、大切な取り組みになっていくのではないかと思います。

以上です。

**市長** 今、どなたもそういった方向にあるということは否定はしないということですが、小学校1年から全部のクラスへそれを入れるという発想がいかげんなものかな、と。器械だから固定をしておかなければいけないから、各教室へ持ち回すというわけにいかないよね。そうすると、私はこれは特定のところへ何か所か入れておいて授業がそこであれば生徒がその教室へ移動すれば一番いいんじゃないかという思いはあるんだけど、もう教室が固定化されていて生徒は動かないという発想、音楽であるとか理科であるとかといったときには生徒は教室を動くことができるんだけど、だから最少の経費で最大の効果をどういうふうに上げていくか、もう限られた予算、予算が幾らでもあればこれはどんどんできるんだけど、この間の一般質問の中にも出ていた、そうすればあれもやりたい、これもやりたいと言うけれども、今の財政事情の中で、では需用費なり、人件費なり、そういったものをどこまで抑えられたかということで将来負担も考えながら政策を実現していかなければいけないので、もう教育委員会の事務局がこういった方向でやりたいから今までのように教育予算はふんだんにどんどんつけるよという時代ではなくして、そこで知恵をどう働かせるかというところをみんなで考えてもらって限られた予算をどう有効に活用するか、あるいは限られた機器をどのように有効に活用するかというところへ少し力を注いで欲しいなという思いはあります。

今まで、恐らく教育委員会で決めたものはそのまま大体100%近くが通っていたと思うんだけど、少子化、高齢化の時代で福祉のほうへも財政を回さなければいけない、ハード事業も充実させていかなければいけないということになればお互いに我慢し合うところは我慢し合っていく、補い合うところは補っていくという方針でないとそれぞれの部局で思いのたけ要望していたのでは、とてもその要望には応え切れない時代であるということをして是非認識をいただきたいと思います。

事務局、コメントがあったらお願いします。

**教育部長** 先ほど、説明させていただきました小中全部合わせて業務用パソコンまで入れるとリースで年間1億2,900万円かかるという金額でございます。非常に高額然としているということでございますが、さっき委員長がおっしゃったように与えるのではなくて希望して手

挙げ方式でそこにまた使い方は新しく生まれてくるということを考えますと、そういった方式もいいのではないかとこのように考えているところですが、議会からのご質問等も含めた中では一応導入をしていくという方針で討議もしているようなことからいろいろな手法はあろうかと思えます。平成29年度取り組みをお願いしていきたいというふうに考えております。

**市長** まず、導入するという方向はこれは間違っていないと思えますが、小中学校全部の教室に一斉に配置をするということについてはここではちょっと返事ができませんし、また部長会議あるいは政策会議等を経て最終的に私ども、教育長も入るわけですが、三役で予算査定段階に結論を出させていただきたいと思えますので、よろしいですか。

そんな方向で進めさせていただきたいと思えます。

---

◎報告事項 前回の総合教育会議の議論を踏まえた取り組み

**市長** 続きまして、報告事項、前回の総合教育会議の議論を踏まえた取り組みについて、事務局から報告をお願いします。

**教育部長** 「前回の総合教育会議の議論を踏まえた取り組み」について資料を読み上げ。

**市長** 事務局から説明をいただきましたが、それぞれ委員の皆様方からご意見、質問等ございましたら、お願いいたします。

**教育委員長** 資料7にかかわってであります。新「通学路安全マップ」が関係団体に配布、それから市のホームページにも掲載されるということでもありますけれども、そういう形にいたしますと恐らくいろいろな角度から市民の方々からご意見、例えばここも危ないのではないかとか、それからここを追加してくれとか、そういうようなのが出てくるかと思われる、市民からのそういう反応についてはどんなふうに扱っていくのか、ちょっと教えていただければと思えます。

**学校教育課学校教育係長** こちらのマップについて、ご説明させていただきます。

これは地図情報をリニューアルしたものですが、現在の安全マップ、こちらのほうもホームページに掲載は行っております。このマップを活用していただいて、市民の方々からご情報等をいただいたり、またその中で更新等、また対応等についても学校とも協議をしながら進めているところでございます。

なお、こちらのほうとは別に地区のほうの方々から危険箇所等の要望を区長さんを通して学校PTAの要望をいただいております。こちらのほうにつきましては建設部局、また

教育委員会、地域づくり課等と協議をいたしまして関係団体とともに通学路の合同点検等を行いまして今後改善等につきまして検討案を作成し、またそういった実施を進めているところでございます。

以上です。

**教育委員長** わかりました。では要望ですけれども、情報量が多く、マップの中の情報が多くなってくると今度はどれが重要な情報なのか、どれが一番気をつけなくてはいけないのかという、軽重を少しつけたほうがいいのかという気もいたしますのでまたマップの体裁等についても工夫、それから学校とか現場の意見もまた聴取してもらえたらと思いますが、よろしくをお願いします。

**学校教育課長** 9月の一般質問で平林議員から安全マップの話がありました。今、これは来年2月に向けてですけれども、各小中学校にも、これを拡大したようなものを貼る場所は昇降口あたりになるかわかりませんが、児童生徒も自分の目で確認できるように拡大版を学校のほうに配布いたしまして子どもたちが見られるところに貼ってもらい、そのようなことを考えております。

以上です。

**教育委員長** ありがとうございます。

**市長** 他にございますか。

今、この通学路の安全対策についてはできる限り今通学路だけではなくして高齢者も増えているので歩道の整備等も進めているところでありますし、それから狭隘部分の拡幅等も進めてはいますが、なかなか箇所によっては地権者の理解が得られないところがたくさんあります。安全対策で当初予算に都市建設のほうに予算を計上しても、毎年地権者との話し合いがつかず、残念ながら減額というか、流用というか、せざるを得ない、こんな状況もありまして担当のほうは苦労はされていると思います。

ただ、要望に基づいて全て解決するというわけにはいきませんが、通学路等は優先をして危険個所の改善に努めているところでございます。それから、時速30キロとかあるいは歩道の色塗り、グリーンゾーン、そういったものも一応注意喚起のために整備をさせていただいている状況もございます。

なかなか安全対策、完璧にというところまではいっていませんが、逐次努力をしていかなければいけない。事故が起きてからでは遅くなりますので、いろいろとパトロールなんかもやっていただいたり、PTAからも危険個所を指摘してもらってそれぞれ各区の区長さんを

通じて一応まとめてもらって出してほしいということになっておりますので、その辺もお含みをいただければと思います。

他にございますか。

須澤委員、いいですか。

**須澤委員** いろいろ発言させていただきました。

---

#### ◎その他

**市長** それでは、その他に移らせていただきたいと思います。

教育長、どうぞ。

**教育長** では、お願いいたします。

前回8月8日のこの総合会議におきまして、宮澤市長から市内の四つの県立高校との連携を図って高校生が市のさまざまな行事に参加することが必要ではないかという旨のご発言がございました。その後の取り組みについて、ご報告いたします。

過日11月29、30日ですが、新たに創設いたしました市の入学準備金貸付制度について、私と課長補佐が市内4高等学校へ出向きまして、それぞれの校長先生に対して説明を行って、市内在住の高校生への案内チラシの配布の依頼をいたしました。そのとき、あわせて市で行った平和のつどい等の資料を持参しまして、この行事への参加協力等も含め今後の市との連携等について懇談を行いました。四つの高校の校長先生方ともに共通して強調されたことは、地域により根ざした高校になるため今後さまざまな分野で市や地域と連携をしていきたい、こういうことでもございました。

具体的には、例えば平和のつどいへの参加は2年生が沖縄へ修学旅行に行く、その事前学習という位置づけで参加させてもらうことも考えられるとか、市が実施する産業イベントなどに呼んでいただければ、学校でつくったものを生徒が販売するなどの実地の学習として役立てたいとか、あるいは私たちが行っています姉妹都市との交流事業に高校生も小中学生のリーダー的な存在として参加することも考えられはしないとか、あるいは吹奏楽部、演劇部などの部活動の発表の場として市民の皆さんに見ていただく機会があればありがたい等々いろいろな提案がありました。また、中には防災時の避難場所として高等学校も含まれているけれども、具体的なマニュアルとか周知について市の担当者の方からの説明を受けたい、このようなご要望もいただきました。



これらのことを受けまして、今後市と高校との連携強化を目的とした市内4高校長との懇談の機会を設けることはどうでしょうかと提案しましたところ、是非やってほしいということでございまして、新年度早々に位置づけをして実施したい、こんなことで合意をいたしましたので今後調整を図ってまいりたいと思っております。

以上です。

**市長** ありがとうございます。

ただいま、安曇野市に県立高校が4校あるのでそれぞれの連携を深めていきたい、さらには平和教育であるとか防災時の避難場所であるとか市政運営上も大変重要な課題がございますので、積極的に高校とまた安曇野市の教育委員会等との連携を深めていくということがございます。

これらに対して何かご意見等ございますか。これは報告いただきましたので、そういった実現が図れるように努力をしていく、と。

どうぞ。

**須澤委員** 今、市長さんがおっしゃったように是非実現をしていただいて4高校が全部残っている、こういう形になるにはやはり地域に必要とされる学校であるということ、そういうのが要件だと思いますね。だから非常に大事なことだと思います。

先ごろ、池田工業高校の地域との連携の授業をもとにした活動がなされるという状況がありますので、やはり安曇野市も是非地域連携を大いにやっていただければと思います。

**市長** 特に、少子化の中で県も高校の統廃合の話題が大分出てきていますし、職業高校を中心にして再編成の話が出てきているので普通高校は明科高校だけで豊科高校も普通高校ですが、あとはそれぞれ、南安曇農業、あるいは穂高商業、隣では池田工業、それぞれがターゲットにならないような方策というか、地域に必要と思われる学校にしていかなければいけないと思っております。いずれにしても、安曇野市内の小中学校、高校との連携は今後また深めていただければと思います。

それでは、予定をさせていただいた議事は以上でございます。具体的な結論も出た課題はございませんけれども、それぞれ前向きに取り組んでいくということで今後また具体的な計画、スケジュール等については事務局のほうでそれぞれ調整をしていただきたいと思います。

また、提供いただいた資料はせっかくの資料でございますので広くそれぞれの機会があるごとに市民の皆さん方にもお知らせをいただいて、今から少子化に対応していかなければいけない時代だと思いますので、また事務局でそれらの対応についても鋭意努力をしていただ

きたいと思います。

協議事項につきましては以上でございますが、それぞれ貴重な意見をいただきました。委員の先生方から全般を通じて、あるいはその他教育問題等について、この際といたしますか、若干の時間がございますので意見があればご発言をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

よろしいですか。

それでは、本日の総合教育会議の協議事項、以上とさせていただきます。貴重なご意見を頂戴いたしましたので、今後それぞれまとめていただいて生かせるものはしっかり生かしてまいりたいというように考えております。

よろしく申し上げます。ありがとうございました。

---

#### ◎閉 会

**教育部長** ありがとうございました。

それでは、本日の会議事項はすべて終了しましたので、これをもちまして閉会といたします。

どうもありがとうございました。